

# 近畿経済産業局管内の経済動向

資料 1

近畿地域の経済は、弱い動きとなっている。先行き下振れを懸念。

## 1. 全体の動向

近畿地域の経済は、これまで堅調であった輸出が79ヶ月ぶり減少に転じたほか、設備投資の抑制や減産に伴い、生産は緩やかに低下傾向、雇用も悪化しつつあり、個人消費にも弱い動きが強まるなど、総じて弱い動きとなっている。先行き、世界経済の動向等により、下振れを懸念。

## 2. 個別の動向

### (1)生産 ～緩やかに低下傾向～

自動車、薄型TV、建機等の減産の動きが電子部品や鉄鋼、化学等の素材産業に波及し、機械投資の抑制や生産調整の動きへと広がっている。

### (2)設備投資 ～総じて増加～

薄型パネルや電池関連等既存の大型案件が継続している。但し、製造業を中心に計画を減額修正する動きが広がっている。

### (3)雇用情勢 ～悪化しつつある～

減産に伴い、自動車関連、電子部品、機械等において、派遣・請負を削減する動きがみられるほか、中途採用の抑制等で求人も減少している。

### (4)個人消費 ～弱い動きが強まっている～

消費者マインドの更なる低下により、衣料品が減少幅を拡大しており、高額商品が百貨店で大幅減少、自動車も大幅に落ち込んでいる。

## 3. 地域経済のトピックス

- 原油・原材料価格が下落しているが、実勢へのタイムラグあり。川下からの値下げ圧力が強まる中、価格転嫁は極めて困難で、収益圧迫が継続。
- 対ドルだけでなくユーロ、ウォンに対する円高が企業収益を圧迫し、部品メーカー等にも影響が波及。特にウォン安等により海外企業の価格優位性が上昇。円高・ウォン安で韓国からの旅行者が急減。一方で、韓国向け旅行者は好調。
- 金融不安の影響等による欧米の景気減速が中国など新興国にも波及し輸出も減少。内外から受注キャンセル続出。株安等で関西地銀11行の中間決算は連結最終減益、うち2行赤字、池田銀行と泉州銀行との経営統合も延期。優良企業でもCP等での資金調達困難で借入金等対応。



